

Ⅱ 関西支所における研究課題の取り組み

関西支所における研究課題の取り組み

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所は、森林・林業・木材産業に関わる中核的な研究機関として、科学的知識の集積を図りながら、行政や社会のニーズに応えるために分野横断的・総合的研究を推進しています。そのため平成28年度から令和2年度まで第4期中長期計画を策定し、4つの重点課題、9つの戦略課題、および基盤事業を設定して研究を推進してきました。関西支所では、以下の4つの重点課題（ア～エ）、7つの戦略課題（アア～エア）に勢力を投入し、森林の多面的機能の高度発揮に関わる分野、人工林の管理・保育技術に関する分野の研究、木材利用および森林生物の有効活用分野の研究を実施しています。各分野の課題を遂行するため、林業現場や自然フィールドに密着した研究を中心に、55課題と5つの基盤事業を行っています（P.7～10の課題一覧表参照）。

ア 森林の多面的機能の高度発揮に向けた森林管理技術の開発

アア 森林生態系を活用した治山技術の高度化と防災・減災技術の開発

アイ 気候変動の影響評価技術の高度化と適応・緩和技術の開発

アウ 生物多様性の保全等に配慮した森林管理技術の開発

イ 国産材の安定供給に向けた持続的林業システムの開発

イア 持続的かつ効率的な森林施業及び林業生産技術の開発

イイ 多様な森林資源の活用に対応した木材供給システムの開発

ウ 木材及び木質資源の利用技術の開発

ウア 資源状況及びニーズに対応した木材の利用技術の開発及び高度化

エ 森林生物の利用技術の高度化と林木育種による多様な品種開発及び育種基盤技術の強化

エア 生物機能の解明による森林資源の新たな有効活用技術の高度化

研究課題の予算規模、投入勢力は課題によって様々です。関西支所では7課題で主査（課題責任者）を務めております。それ以外の課題は、森林総合研究所（つくば）や大学など他機関の研究員が主査を務め、関西支所では課題の一部を分担しています。55課題の予算区分別の内訳は、交付金一般研究費が14課題、森林総合研究所の所内の交付金プロジェクトが7課題で、残り34課題が外部資金です。外部資金の中では科学研究費助成事業が18課題と多く、そのほか農林水産省、環境省の研究費や事業費及び助成金を獲得し研究を遂行しています。

このうち、関西支所で重要なテーマとして研究を推進している課題は、

アウ bPF60 サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発（P.26 参照）

イア aPS12 広葉樹利用に向けた林分の資産価値および生産コストの評価（P.33 参照）

などが挙げられます。これらは、バラ科樹木への大きな影響が懸念される外来害虫を防除するための課題、および広葉樹林を有効的に循環利用するための課題です。林業事業体や市民団体などへの成果の普及を実現し、地域における「橋渡し機能」を果たすことが期待されています。

